

部会長巻頭言
～部会事務の見直し～

本年4月より粒子・流体プロセス部会部会長を拝命いたしました。2002年に本部会が創設された当時、部会幹事として関わってからもう20年が経ちました。当時すでに活発に活動中の特別研究会(後の分科会)を誕生したばかりの“部会”はどのように取りまとめればよいのか、部会の役割は何かを模索した時期でした。2006年には上山惟一部会長のもとに部会賞が設立、部会主催国際会議などのイベント開催、2008年から堀尾正毅部会長のご提案で本ニュースレターが創刊されました。私はこのニュースレターの初代編集担当でした(20年たちましたのでそろそろデザインの一新を期待します)。現在、本部会は化学工学会の主要部会としての役割が確立してきたと感じています。



寺坂宏一(慶大)

さて2003年に制定(2009年に一部改正)された粒子・流体プロセス部会規約は20年近くにわたり見直されていません。しかし規約に沿って事務作業を行おうと努力された歴年の事務局担当者にはたいへんな事務負担が課されています。これには後藤邦彰 2018-2019年度部会長・三野事務局担当がお気づきになり各種簡素化等が始まり、桑木賢也 2020-2021年度部会長・野田事務局担当に引き継がれて改善がなされています。この問題は次期以降の部会事務局業務の依頼にも大きな支障となっており、早急な改革が必要となっています。

主要な部会業務は部会幹事で分担していますが、事務局は主として下記を担当しておりそれぞれに課題があります。

(1) 部会会員の名簿管理

毎月入退会がある部会会員名簿の更新は大変多忙なうえ、部会名簿以外に、分科会や化学工学会本部にも名簿が存在するため、どれが正確で最新か不明です。

(2) 部会・分科会・各種カテゴリーへのメール配信
事務局はメール情報配信基地を担っていますが、不達メール(誤アドレス)の頻発、各種カテゴリー分別が困難となっています。

(3) 会計処理

部会や分科会の活動費用は主として化学工学会の会費で賄われ、毎月の分科会会員数に応じて按分されるので、入退会の影響を受けています。

(4) 部会ホームページ

<http://www2.scej.org/partluid/>

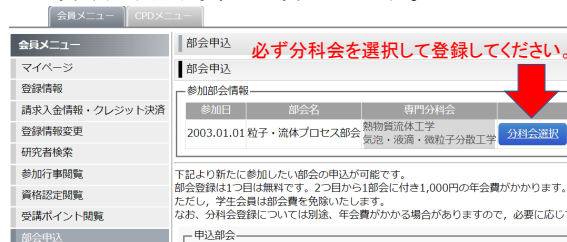
部会ホームページは重要な情報発信源ですので十分な情報量と迅速なコード更新が必須ですが、2年毎交代する素人の事務局員には困難です。

以上のような問題を承知したうえで事務局をご快諾いただいた藤岡沙都子准教授と渡邊由紀子秘書(慶大)に厚く感謝いたします。

現在問題解決のために、(1)名簿管理については、化学工学会本部と交渉し、本部管理の名簿情報に一本化される予定です。(2)メールアドレス情報も、本部登録データを今後使用します。(3)本部会の各分科会会員数は**当該年度6月1日**付本部名簿記載の人数を一年間使用します。(4)ホームページについては外部委託を調査中です。

以上のように部会事務の単純化を図りますので部会会員の皆様に**重要なお願い**があります。化学工学会会員名簿のみが今後唯一の名簿¹になりますので、下記のリンクより**マイページにログインし記載内容が正しいかを必ずご確認ください**。

<https://service.kktcs.co.jp/smms2/loginmember/scej> とくに下図画面で「部会申込」→「分科会選択」を必ず行ってください。**これを忘れると分科会情報が来なくなります**。さらに分科会登録会員数に従って分科会活動費が配分されます。



まだほかにも問題はありますが、上記の課題を解決すれば、この忙殺作業が軽減されるため本来の部会事務能力アップが見込めます。

2022年度の化学工学会第53回秋季大会は新型インフルエンザ禍の影響が長引きハイフレックスとなり完全対面形式には至りませんでした。各分科会はそれぞれ活発にシンポジウムが開催

¹ 化学工学会非会員の部会会員は別の名簿になります。

されてきました。一方で帰国時 PCR 陰性証明が不要となり、今後海外での学会活動が盛んになると思います。各分科会の皆様のご活躍に期待しております。

(部会長・寺坂 宏一(慶應義塾大学))

2022 年度 部会幹事会報告

第 1 回部会幹事会

日時:2022 年 9 月 20 日 (火)13:00-14:00

場所:オンライン

議事:

1. 前回臨時幹事会議事録の確認
2. 粒子・流体プロセス部会分科会運営細則の見直しについて
3. 2022 年度分科会予算配分について
4. 部会名簿の一本化と化学工学会本部名簿の閲覧について
5. 部会特別会員の取り扱いの変更について
6. 部会賞進捗状況の報告(シンポジウム賞、動画賞、技術賞、フロンティア賞)
7. ニュースレター進捗状況
8. 2022 年度部会セミナー実施内容および準備内容の確認
9. 第 10 回若手研究者・技術者を対象とした工場見学および交流会準備状況
10. 部会 CT 賞候補者
11. その他

(事務局・藤岡沙都子(慶應義塾大学))

2022 年度 幹事会役員の紹介

	氏名	所属	担当
部会長	寺坂 宏一	慶應義塾大学	総括
副部会長	太田 光浩	徳島大学	行事
	仁志 和彦	千葉工業大学	部会賞
幹事	藤本 敏行	室蘭工業大学	フロンティア賞
	鈴木 一己	福岡大学	シンポジウム賞(正)
	押谷 潤	岡山理科大学	技術賞(正)
	松隈 洋介	福岡大学	部会セミナー(正)
	三角 隆太	横浜国立大学	ニュースレター(正)
	長津雄一郎	東京農工大学	動画賞
	春藤 晃人	プライミクス	ニュースレター(副)
	立元 雄治	静岡大学	シンポジウム賞(副)
	安藤 景太	慶應義塾大学	部会セミナー(副)
	岩崎 智宏	大阪府立大学	技術賞(副)
	企画幹事	伊奈 智秀	ダイセル
坂倉 圭		出光昭和シェル	若手・女性育成
島田 直樹		住友化学	若手・女性育成
監事	桑木 賢也	岡山理科大学	
	古川 直樹	カネカ	
事務局	藤岡沙都子	慶應義塾大学	情報発信
	渡邊由紀子	慶應義塾大学	会計

粒子・流体プロセス部会賞 (奨励賞・プレゼンテーション賞)

化学工学会第 53 回秋季大会の粒子・流体プロセス部会の部会シンポジウム「SY-52:熱物質流体工学の最前線 2022」、「SY-53:粉体プロセスの進展 2022」、「SY-54:ミキシング技術の最前線 2022」、「SY-55:気泡・液滴・微粒子分散工学 2022」および部会横断型シンポジウム「ST-29:流動層の最前線 2022」において、学生会員の発表者を対象としたプレゼンテーション賞の審査がなされ、合計 9 名の方が受賞されました。受賞された皆様、おめでとうございます。

また、37 歳未満の正会員の発表を対象とした奨励賞は、応募期間が短かったためか、今年度は応募者数 0 でした。来年度は周知期間を長く取る予定ですので、積極的に応募されることを期待しています。

(シンポジウム賞担当・鈴木 一己)

粒子・流体プロセス部会賞 (フロンティア賞)

2022 年度のフロンティア賞の募集を行っています。化学工学論文集、*J. Chem. Eng. Japan* など、化学工学に関連する国内外の学術雑誌や同関連の国際会議等での査読付き Proceedings に掲載された論文の中で、特にフロンティア性の高い優秀な研究論文で、本部会会員が著者になっている論文を 9 月 30 日(金)までにご推薦ください。

募集要領は 7 月 26 日の部会事務局からのメールをご覧ください。

(フロンティア賞担当・藤本 敏行)

粒子・流体プロセス部会賞 (動画賞)

2022 年度動画賞は、化学工学会第 53 回秋季大会の以下のセッションにおいて発表された内容を対象に募集しています(締切:令和 4 年 10 月 7 日)。

- ・SY-52 熱物質流体工学の最前線 2022
- ・SY-53 粉体プロセスの進展 2022
- ・SY-54 ミキシング技術の最前線 2022
- ・SY-55 気泡・液滴・微粒子分散工学 2022
- ・ST-29 流動層の最前線 2022

審査委員会を結成後、厳正な審査を行い、本年 11 月末を目途に受賞作品を決定します。本動画賞は、研究、技術、教育の各部門において授与されます。表彰式と作品鑑賞会は化学工学会第 88

年会時に行われる予定です。なお、受賞作品は部会 HP にもリンクしますので、過去の受賞作品とあわせて会員の皆様にご覧頂ければ幸いです。

(動画賞担当・長津 雄一郎)

粒子・流体プロセス部会賞 (技術賞)

現在、2022 年度の技術賞の募集を行っております。自薦・他薦は問いません。応募締切は11月18日(金)です。

以下のホームページより募集要項、候補者推薦用紙、技術賞規程をダウンロードできます。部会会員の皆様からの多数のご応募をお待ち申し上げます。

<http://www2.scej.org/partfluid/data/hyosho/Gijutsu/gijutsu.php>

(技術賞担当・押谷 潤)

部会セミナー

本年度の粒子・流体プロセス部会・部会セミナーは、例年どおり第 88 年会の 1 日目、2023 年 3 月 15 日(水)の午後に開催予定です。この数年、オンラインなどで開催してはいましたが、本年度は今のところ対面での開催を検討しております。詳細は追ってご連絡いたしますのでどうぞよろしくお願ひします。

(部会セミナー担当・松隈 洋介)

若手女性育成プロジェクト

若手女性育成プロジェクトでは例年、ダイバーシティに富んだ先生方の講演と企業の取り組み紹介を実施している。特に女性の先生方からのトピックス紹介が年々増加傾向にあり、流体・粒子プロセス部会にとっては頼もしい兆候かもしれない。今後は育児を支える男性研究者をはじめ、多様な若手研究者が一団を超えて、部会全体を引っ張ることを願って止まない。昨年度は第 9 回「若手研究者・技術者を対象とした見学講演会および交流会」を企画した。COVID-19 の影響で Web 開催ではあったが、複数の企業をバーチャルでコンパクトに紹介できたという点では却って大きな成功といえるであろう。さて、今年度も2023年1月末頃に、出光昭和シェル・住友化学・ライオンからの企業紹介を含めてダイバーシティの取り組みをお届けする予定で準備中である。詳細が固まり次第化学工学会 HP やお知らせ等で案内するので、ぜひ学生様や企業若手の皆様の参加をよろしくお願ひいたします。

(若手女性育成プロジェクト担当:坂倉 圭(出光

昭和シェル)・伊奈 智秀(ダイセル)・島田直樹
(住友化学)

分科会からのお知らせ

熱物質流体工学分科会

化学工学会 第53回秋季大会(9/14-16)の前日に熱物質流体工学セミナー2022を下記の通り企画しております。

<熱物質流体工学セミナー2022>

日時: 9月13日(火) 13:15 - 17:00

開催形態: Zoomオンライン

[プログラム]

13:15~13:20 開会挨拶

13:20~14:20 講演1 (講演50分+質疑10分)

講演者: 信州大学 酒井俊郎 氏

講演題目:「大きな熱容量・高い熱交換性能を有する熱輸送媒体の開発」

14:20~15:20 講演2 (講演50分+質疑10分)

講演者: 信州大学 吉野正人 氏

講演題目:「格子ボルツマン法による二相流問題の数値シミュレーション」

15:20~15:40 休憩 (20分)

15:40~16:40 講演3 (講演50分+質疑10分)

講演者: 大阪公立大学 堀江孝史 氏

講演題目:「非定常流動場を活用した連続式反応器および晶析器の開発」

16:40-17:00 zoomブレイクアウトルーム

短時間ですが、意見交換の場を設けます。交流にご活用ください。

また、翌日の秋季大会初日には、SY-52 [粒子・流体プロセス部会シンポジウム] 熱物質流体工学の最前線 2022 を行います。17 件の口頭発表(オンライン)が行われます。

(分科会代表・三角 隆太)

気泡・液滴・微粒子分散工学分科会

気泡・液滴・微粒子分散工学分科会は、信州大学 長野(工学)キャンパスでの第 53 回秋季大会の 2 日目の 16 時 30 分より、会場の AD 教室でハイフレックス方式にて行われた。今後の運営体制と方針が審議され了承された。また、MMPE2022 の開催状況などが報告された。その後、17 時より、気泡・液滴・微粒子分散工学分科会サロン(通称 気液固サロン)が開催され、静岡大学グリーン科学技術研究所 所長 間瀬 暢之氏より、「ファインバブル有機化学:グリーンものづくり技術へと導くには?」という題目で、ファインバブルを用いた新規の反応場についての興味深いお話を頂いた。会場、オンラインからも多数の質

疑応答があり、大変有意義なサロンとなった。



(分科会代表・松隈 洋介)

粉体プロセス分科会

第 53 回秋季大会では SY-53 部会シンポジウム「粉体プロセスの進展 2022」を開催いたしました。産業医科大学 東秀憲先生の優秀論文賞講演を含めて 16 件の講演が行われ、オンサイトおよびオンラインで活発な議論が行われました。この場をお借りして、関係各位に篤くお礼申し上げます。

また、「粉体の機械的単位操作に関する参加型講演会(通算第 9 回)」「(粉体工学会 機械的単位操作に関する産学連携研究会主催)を共催いたします。申し込み締め切りは 10 月 7 日となっておりますので、奮ってご参加ください。

当分科会では、粉体材料、粉体プロセスに関するシンポジウムに積極的に共催・協賛していきたいと考えております。共催・協賛の遺体は分科会代表の藤本(fjmt@mmm.muroran-it.ac.jp)までお寄せください。

(分科会代表・藤本 敏行)

流動層分科会

化学工学会 第 53 回秋季大会の第 3 日に ST-29 [部会横断型シンポジウム]流動層の最前線 2022 を開催します。13 件の講演(オンライン)がございます。なお、本シンポジウムは、これまで化学工学会秋季大会とは別開催の第 28 回流動化・粒子プロセッシングシンポジウム(第 17 回反応装置・プロセスシンポジウム)に相当します。

(分科会代表・押谷 潤)

ミキシング技術分科会

分科会恒例の夏期セミナーは 8 月下旬の二日間、ミキシングの研究者、メーカー、ユーザーが一堂に会し、情報交換する場となっています。今年は神戸大学を中心とした関西地区の幹事のご尽力により、「攪拌操作のイノベーション」と題して神戸ポートピアホテルにてハイブリッド形式で開催されました。講演内容はアカデミックの研究講演 2 件(1 件は海外より)、メーカーの講演 4 件の計 6

件の講演が行われました。多くの方(全体の 3 分の 2)が対面で参加され、3 年ぶりに交流を再開することができました。参加者はオンラインでは得られない情報交換ができたようです。

また、地区行事であるミキシングサロン(東日本、関西・東海、九州・中国の 3 地区)については、10 月から 1 月にかけてオンライン形式での開催が予定されています。詳細が決まりましたらご案内致します。

(分科会代表・鈴木 一己)

部会(分科会)への入会方法

■化学工学会の個人会員の方は、化学工学会 HP(<http://www.scej.org/>)の「各種申込>部会入会>(分科会選択を忘れずに)」より、お申し込み下さい。登録情報、eメール変更などは化学工学会HPでのみ行えます。

■非化学工学会会員の方で、本部会の法人特別会員、特別個人会員入会をご希望の方、退会をご希望の方、登録情報(eメール等)変更のお問合せは、**ご入会希望(またはご所属)の分科会に直接ご連絡下さい。**

■その他、ご不明な点がありましたら

<http://www2.scej.org/partluid/info.php> に掲載しています部会事務局までお問合せください。

部会ニュースレター編集後記

ニュースレターにご執筆いただいた皆様、ご多用の中ありがとうございました。このニュースレターが部会活動の情報提供に寄与できましたら幸いです。

(ニュースレター担当・三角隆太、春藤 晃人)